

平成30年度 第4回 西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会要点記録（確定稿）

- 開催日時：平成30年11月13日（火）18時40分～20時35分
- 開催場所：田無総合福祉センター4階 第3会議室
- 出席委員：荘雄一朗、戸田亘、富澤佳代子、野崎信行、渡辺裕一
＜以上5名、敬称略、五十音順＞
- 出席役職員：佐藤文俊、飯塚和幸、嶋田孝雄、長山清美

- 資料 1：西東京ボランティア・市民活動センター事業月次報告（平成30年9～10月）
 - 資料 2：コーディネート状況等月次報告表（平成30年9～10月）
 - 資料 3：ボランティアコーディネート実績表（平成30年9～10月）
 - 資料 4：平成30年度災害ボランティア養成講習会アンケート集計結果
 - 資料 5：保谷ボランティア活動室の移転について
 - 資料 6：保谷ボランティア活動室移転スケジュール
 - 資料 7：西東京ボランティア・市民活動センター予定表（11～12月）
 - 資料 8：平成30年度第3回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会要点記録（未定稿）案
 - 資料 9：軒下ふれあいバザー 事業実施企画書
 - 資料10：災害ボランティアセンタースタッフ養成講習会 事業実施企画書
 - 資料11：ボランティア・市民活動センター事業の基本方針
※アクションプラン（仮称）用に作成した資料です。
- 資料別冊：平成30年度第2回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会要点記録
＜確定稿＞
- 資料別紙：ぼらんていあ倶楽部第104号

1. 報 告 事 項

(1). 業務報告（平成30年9月・10月）について（資料1～3）

- ・ボランティア登録者数の増加具合は例年と比較してどうか。
→昨年から増加しており、今年度も昨年同様、順調に伸びている。
様々なところでの声掛けが功を奏している。

(2). 災害ボランティア養成講習会の実施報告について（資料4）

- ・レスキューバードに何らかの形で8名つながったというのは大きな成果ではないか
→昨年は0名であったので、成果としては大きいと思われる。
- ・災害ボランティア活動を行うことが可能と答えた13名の男女比はいかがか。
→男女別の集計データが手元にないため不明である。
※会議後に確認したところ、女性15名、男性10名の3：2の比率であった。

- ・レスキューバードにつながった8名の男女比はいかがか。
→女性の方が多いと思われる。レスキューバードでの女性の活躍が目覚ましいようである。
- ・この講習会を入り口にして入ってきてくれた8名は参加や説明を聞きたいということでつながった。来てくれたからには離さない、魅力的な活動をしていきたい。

(3)．保谷活動室の移転について（資料5・6）

- ・保谷東分庁舎のものが全て総合福祉センターに来るという噂があったが本当だろうか。
→活動室については富士町のきららに移り、社協の事務所が総合福祉センターに来る。
- ・総合福祉センターの館内の使い勝手がどのように変わるのか。
→4階では第3会議室とりんく事務所の工事が入り、社協の事務所の一部となる予定。
今後、第3会議室は使用できなくなる予定である。また、1階の団体連絡センターがある場所は社会福祉協議会の事務所となる予定である。
- ・ボラフェスの規模が小さくなるのだろうか。
→これまでは2階までの利用だったが、4階まで全館を使用することで実施をする予定でいる。
どこまで使えなくなるのか、どこが使えるのかはまだはっきりしていない。
→活動場所に関してのボランティアグループから心配の声があがるのは重要な点である。どうなるかが決まり、その結果どのように活動を支援していけるかを考えていけたらよい。

(4)．業務予定(平成30年11月・12月)について（資料7）

- ・特に無し

2. 審 議 事 項

(1)．平成30年度第3回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会要点記録（未定稿）案について（資料8）

- ・承認とする。

3. 協 議 事 項

(1)．軒下ふれあいバザーの実施について（資料9）

- ・綿菓子の売り上げは経費を差し引いたものか。
→売上なので差し引いていない。周知・広報の意味もあって実施している。
- ・参加団体から参加費をもらっているのか。
→もらっている。運営資金とする場合は1,000円、寄付をする場合は500円となっている。
- ・市のリサイクルマーケットは無料である。社協がやるので無料と思っていたが、最初から有料で実施しているのか。
→最初から有料としている。それに見合う収益・広報効果もあると思われる。
- ・チラシの配布予定やポスターは早めにかつ多くの所にしてほしい。
→マックスバリュへチラシ配布の協力と近隣へのチラシの配布、タウン紙への掲載予定がある。
- ・大変だろうがタウン紙へは早めに記事を持って行った方がよい。

→他の事業でも同様に考えられるだろう。

→5月ごろにバザーの実施について協力をお願いはするが、店長の異動が10月に行われることがあり、そこまでは開催日がなかなか決まらない事情がある。また元々有料で貸し出すスペースなので、有料の事業が優先される場合があると以前に話しがあったので早期の日程確約は難しいところである。

- ・チラシに軒下ふれあいバザーの記事掲載をしてもらうように働きかけても良いのではないかな。
- ・交渉してもらうボランティアがいても良いだろう。

(2). 災害ボランティアセンタースタッフ養成講習会の実施について（資料10）

- ・最終回に模擬訓練を入れてもらい、去年雨で流れてしまったので大変楽しみである。
- ・災害ボランティアセンターのスタッフとしての訓練はもう少しやりたいと考えていたので、10～15名は参加させてもらうことになるだろう。
- ・ボラセンのミッションにしているプラットフォームにおいて、人材育成がわかりやすく流れている事業だろう。傾聴ボランティアにおいてもそのような流れになってきており、いろいろな実践が出てきてわかりやすくなってきた。ぜひ参加者にはつながってってもらえると良い。

(3). アクションプラン（仮称）の策定について（資料11）

【1. コーディネート業務】

- ・「基本的な方向性」の部分に、社協のアクションプランと整合性を持たせるための文言を掲載させてもらった。
- ・共通のプラットフォームということで他の事業との連携がうたわれているのはとても良い。
- ・新規登録者数は、現在の社協のアクションプランでは20人だったが、ボラセンのアクションプランでは実績見合いで70名を目指すとしている。これが達成できなかったとしても、さまざまな環境の変化があったと判断し、どのようにすればよいか考えればよいと思う。
- ・ニーズ充足率を実績見合いで低く記載した。
- ・数字としては厳しく感じるかもしれないが、達成しなくてはいけないというノルマではなく、目指すものとして考えていただきたい。

【2. 広報事業】

- ・事業の中では広報はとても大切である。
- ・倶楽部の発行回数は4回で良いのか。タイミングが合わず掲載できることが限られているようなので、6回あっても良いのではないかな。
→4回になってからは手間的には楽になっているが、掲載する内容が報告では遅すぎ、予告では早すぎるといった状況が生まれてきている。
- ・予算の問題であるなら、白黒印刷にしても6回発行に戻した方が良いのではないかな。
→倶楽部発行に関する費用は減少はしているが、これまで同送していた主催事業の案内チラシの多くが、タイミングが合わなくなり個別送付になってしまったので、総体的な経費は増加している。
- ・いつから4回発行となっているのか。
→今年度から4回発行となっている。前回の運営委員会では、アクションプランの中で4回発

行にしておいて6回発行するのは問題ないだろうが、6回発行にしておいて4回になってしまいうのは問題があるかもしれないとのことで、4回発行に表記を据え置いた経緯がある。

- ・32年度からは6回を予定するが、倶楽部の発行の仕方・編集などについては、31年度に作成方法を検討をする。職員の負担を減らす方法（団体に記事を依頼するなど）を考え、無理なく6回発行することを検討していくこととする。
- ・QRコードを掲載することで記事が広がるのではないか。
→具体的な対応②に「(QRコードを活用)」を文末に加える。

【3. 夏！体験ボランティア事業】

- ・「交流会参加団体数」の目標数値が空欄である。参加団体は少ないのか。
→少ない状況にある。部屋の確保の都合上、日程をボラセンで設定し、5月ごろに早めに案内をしているが、受け入れ先のみなさんが忙しくて参加ができない状況があるようだ。
一方で受入側のアンケートの回答は回答率が上がっている。これを糸口に交流会に参加を促すことができると考えている。また参加者交流会にミニ講座のようなものを併せて行うことも検討しても良いかもしれない。
→具体的な対応の4番目に「④交流会参加団体の増加に向けて、会の内容を検討する。」を追記する。
- ・中学校は部活が忙しくて参加できない子が多いが、ボランティア活動に力も入れ始めているので、説明用文書を作成して添付することは良いかもしれない。ただし、校長判断では配布できないので教育委員会に了解を得る必要がある。
→教育委員会にも話はしているが校長判断と言われているため、学校が安心して配布できるように鏡文はつけ、できる限り副校長に渡すようにしている。
- ・副校長に趣旨説明しても最終的な判断は校長がする。教師から児童・生徒に説明するための説明用文書を配布することについても校長に説明する必要がある。教育長や小学校と中学校の校長会長への説明ができると良い。
- ・教育委員会の後援が入るチラシは多数あるので、それを一枚一枚配ることは難しい。お金を取るものは配布しない場合もある。

【4. ボランティアはじめて講座】

- ・年に1回開催だったものを回数増やしているが、毎回違うものではなく定型の物を複数回開催し、負担がないような形で行うことを想定している。
- ・広報紙の発行回数に合わせて実施するが、年6回の発行となったので、はじめて講座は年4回程度の実施としたい。
- ・「市民の中でボランティアをやってみたらこんな風に世界が広がった」という人に話しをしてもらうことは、参加してくれた人には意味のあることだと思う。そういう人を育てようというのが市民講師育成だろう。
- ・複数回開催するために市民講師を養成し、市民参加でこの講座を作っていくことができないかという計画になっている。前回の運営委員会の議論を踏まえ、実施内容の企画の部分を作成したところである。

【5. 災害ボランティア養成講習会】

- ・災害ボランティアグループへの加入者数が計画のように増えていくと良い。
- ・災害ボランティアや災害ボランティアグループ、講習会参加者の男女比はどうなっているか。
→6：4で女性が多い状況。男性は日中は仕事で都心に行く人が多い。平日活動できる人の存在は大きいので、講座そのものを平日に行い、平日に活動できる人をつかまえることもありだと思われる。
- ・社会福祉法人職員等に参加を呼び掛けるとのことだが、施設で災害ボランティアの話はあるのだろうか。
→研修で災害について学ぶことはあるが、施設職員が外に出ていくのは厳しいだろう。施設としての地域の人を受け入れるという協力になると思われる。
→そのような職員さんにも災害ボランティアを学んだり、知るきっかけにしてもらえると良い。

【6. 災害ボランティアスタッフ養成講習会】

- ・社協内の災害VCワーキンググループとの連携は重要であろう。

【7. 傾聴ボランティア養成講習会】

- ・内容的には連絡会での実施は可能だが、後援をしっかりといただかないと信頼性が担保できないと思われる。
→当時の社協総務課長からも修了証に後援として社協名を入れることも含め、了解は取れているので、後援することは全く問題はない。
- ・連絡会の進行も社協が主導でやってもらっているが、再来年度以降も継続してほしいと考えている。
→連絡会の関わりについては、すぐには難しかもしれないが進行についても徐々に連絡会主導でほしい。ボラセン職員は出席しながらサポートさせていただく形になれると良い。
それまでは、進行や事務的な部分をボラセンで行っていくことになるだろう。
→連携は絶えず持ちつつ伴走支援を続ける。
- ・「協力（後援）」となっているが、「協力」だと優しめで、「後援」できれば「特別後援」のほうが言葉の意味が強い気がする。「後援」にならないだろうか。
→社協での「後援」は名義のみになるので、実行的な意味を持つために「協力」を残しているところである。
→それであるならばこのままで良い。

【8. ボランティア出張講座】

- ・こちらからはじめて講座と同様、市民講師を育成していく計画になっており、人材育成の意味も含まれている。
- ・開催回数が増えていっても良い仕組みを作り、単に開催回数が増えて首が絞まる状況にならないようにしながら、啓蒙・啓発活動を広げていく仕組みを作る計画とした。
- ・ボラセンに関わっている団体が、夏V・はじめて講座・出張講座などの事業に参加・協力しようと思う立て付けを作っていた方が良いだろう。
→団体間のつながり作りという活動なども含むということだろう。

- ボラセン事業だから私たちも手伝おうという形が輪になっていけば、このような企画に参加しやすくなるのではないかな。
- 市民講師の育成や地域の団体との連携については、ゆめこらぼとの連携・協働を強化していても良いのではないかな。
- 具体的な対応②の下に、「団体の協力が得られるようゆめこらぼとの連携を強化する」の文言を入れるようにする。ボランティア出張講座だけでなく、夏Ⅴ、はじめて講座にも入れる。

【9. ボラフェス】

- ・実行委員会の組織の見直しに踏み込んで計画をした。
- ・参加団体には、「伝え方のコツ」講座を学んでいただくことで、ボラフェスに来てもらうための発信方法の工夫や参加団体の力を高めていくことができるのではないかな。
- ・ボラセンに関わっていれば、こういうことが学べるとなると良い。
- ・ボラフェスに関わっている団体の中に、ゆめこらぼに関わっていない団体もあるのだろうか。
→あると思われる。ゆめこらぼで絡んだことが無い団体が実際にある。
- ・単独グループだと会議だけで忙しくなって活動ができなくなってしまうので、大きなまとまりで関わることもある。他にもそのようなところがあるのではないだろうか。
- ・34年度以降は新事業実行委員会との統合をし、他の社協事業との統合を計画している。
- ・社協の中でも横の連絡を密にしてほしい。

【10. ボランティア活動者の懇談会】

- ・「おひさしぶり」「おひまなら」「おひるからパーティ」ということで、「おひパ事業」という名称で、活動に結び付いていないボランティアへ会費制パーティを開催する。
- ・課題になっている、登録はするが活動につながらず参加しづらくなっている方、まだまだ力を発揮できる方の掘り起こしを行うために開催できたら良い。
- ・招待状を送り、「あなたに」ということで声掛けをし、来てもよい、期待と思わせる工夫をする。
- ・毎年、ボランティア登録削除者が40～50名いるので、ボランティア登録削除者数を減少させることを目標の1つとして挙げ、登録者数を増やすことを目指した。
- ・どのくらいの方が来てもらえるのか、誘い文句や出やすい雰囲気はどう作るのが課題だろう。

- 「11. 軒下ふれあいバザー事業」以降については、検討する時間がなかったため、次回以降に検討する。前回同様、指定期日までに意見をお寄せいただき、正副委員長の打ち合わせで修正案を作成することとした。

4. そ の 他

(1). 次回運営委員会開催日程について

- 開催日時：平成31年1月8日（火）18時00分～19時30分
- 開催場所：田無総合福祉センター3階 第1会議室

- 以上をもって平成30年度第4回運営委員会の審議、協議を終了し、閉会した。